

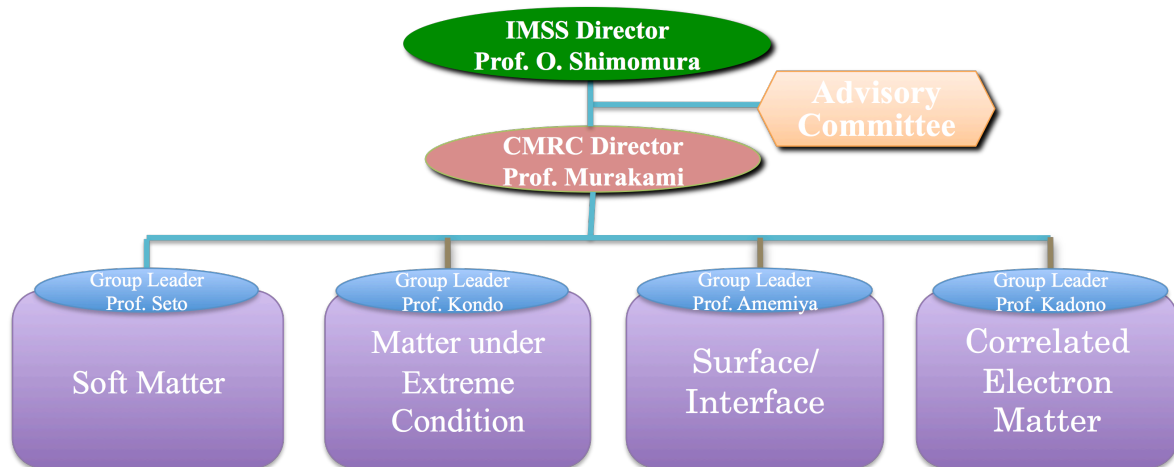
構造物性研究センター構想報告

東北大学大学院理学研究科 村上洋一

物質構造科学研究所（物構研）の研究環境が大きく変わろうとしています。J-PARC では世界最強のビームを使った新たな中性子・ミュオン利用研究がまさに始まろうとしており、PF, PF-AR では直線部増強や新たなビームラン統廃合が戦略的に進められてきています。この時期に、以前から構想のあった構造物性研究センターを設立することは時宜を得ていることであり、生命科学と物性科学の研究を先導する 2 つのセンターを車の両輪として持つことは物構研としても非常に有意義なことであると考えています。

構造物性研究センターは、物構研が持つ放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子という複数のプローブの総合的な利用と、外部の研究者との密接な研究協力を二本柱とすることにより、独創的かつ先端的な研究を展開し、物性科学分野の世界的研究拠点となることを目指しています。

下図に示されているように、構造物性研究センター（センター長 村上洋一）は物構研所長のもとに組織されます。また所長のもとには顧問委員会が設置され、センターで推進するサイエンスについての助言や、成果に対する評価をして頂く予定です。当センターでは、現在の物性科学研究の中で重要であると考えられる次の 4 つの物質系において、構造物性研究を推進することを計画しています：1. 強相関電子系、2. 表面・界面系、3. ソフトマター系、4. 極限環境下物質系。今後、これらの研究領域に関連する国内外の研究者の連携を図り、各研究プロジェクトを推進していきます。また、これらの研究領域間を跨る新しい研究領域の開拓も目指していきます。



構造物性研究センターの組織図